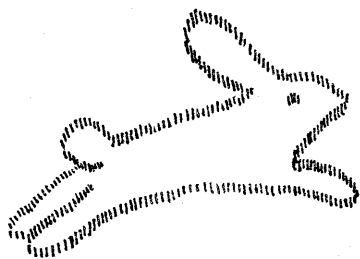


秋 が く る



蕪木寿江

— その一 —

こどもが急いで行く  
靴をつっかけながら  
どこへいくんだらう  
こおろぎでも 見つけたのかな

こどもが飛んで行く  
スキップの足どりで  
どこへいくんだらう  
赤とんぼの群を 見つけたのかな

こどもが走って行く  
人形を抱いたまま  
どこへいくんだらう  
面白いもの 見つけたのかな

大人が座って絵をかいている

「園長先生、それ誰にあげるの？」

「きよちゃん？」

「おひっこしするの？」

「雪のいっぱい降るところだって……」

「わたしもおひっこししたいなあ……」

夏の名残りの朝顔

色づいた葡萄の葉

その下で遊ぶ友達いっぱい

絵の中の こどももふえる

まわりの こどももふえる

——その二——

「せんせい 運動会 またしようよ

せんせい 運動会 あしたしようよ」



赤白帽子が きらいで

園庭の白のラインが こわくて

友達と並んで走るのが いやで

練習が始まる一週間は

ジャングルジムの上に 一人でいました

桜が一つ二つ紅葉しだし

桐の花がカサコソと音を立てる中で

レコードの音をさえぎるように

両手で耳をふさいで見えていました

一年たったら 赤白帽子もかぶれます

白のラインも平気です

友達と競争しても走れます

レコードの音にも慣れました

こうやって

一斉に走ることを覚えるのでしょうか

こうやって

自分を主張しなくなるのでしょうか

こうやって

幼児期から少年になっていくのでしょうか

こうやって——こうやって……

先生の背中で 大声で泣いていた日々が

こんなに僕を 変えたのだと

そう納得しようと 思いました

(神奈川・市ヶ尾幼稚園)